

『命を思い出す』

奈良県立西の京高等学校 三年 余 有果

私は今までいろいろなものに守られながら安全に生きてきました。命が脅かされることなく生きてきました。それはきっと、とても幸運なことなんだと思います。私が大好きなゲームをやっているとき、勉強のやる気が出ないと嘆いているとき、この作文を書いている今でさえ、日本のどこかで、誰かが事件や事故の被害に苦しんでいるのだと思うと、何だか「命を守る」という目的が、途方もないことのように思えてきます。どうしたら少しでも悲しい思いをする人を減らすことができるのか、私なりに考えてみようと思います。

そもそも命とは何なのでしょう。私たちは普段当然のように生活をして、当然のように生きています。私たちは当たり前のように命を抱えています。当たり前すぎて、私たちはその尊さを忘れてしまっている気がするのです。人間は日常にあるものの重要性を忘れがちです。非日常に身を置いた時、手遅れになった時によりやく思い出すものなのだと思います。命の危機に直面する時、よりやく命を思い出す。命とは、当たり前のもではなく、その一つ一つが尊く、奇跡そのものであると考えます。そのことを、常日頃からじゃなくても良いから、ふとした瞬間に思い出してもらいたいと私は思います。そのために、私たちはキッカケを得る必要があると思います。人間はある程度衝撃のある出来事がないと考えることができないからです。そして、私の経験の中で、一番キッカケになると思ったのが、学校での活動の時に知った「生命のメッセージ展」でした。事故や事件によって命を奪われた方々へのメッセージや、生前に履いていた靴、写真などが添えられた、亡くなられた方々一人一人の等身大の人型「メッセンジャー」が展示されるその活動は、私の心を大きく動かしてくれました。

白状すると、私はあまりこういった活動に興味を持つことが少ないのです。そんな私がこの「生命のメッセージ展」を知り、触れていくことになったのは、前述の通り、学校での研究活動の時でした。同じ研究テーマをやるグループを探す時に声をかけてくれた友達にその存在を教えてもらい、興味を持った私は、「生命のメッセージ展」に関わらせてもらえることになりました。その中で私は、メッセージ展を見に来た方々の感想を読みましたが、それらはどれも、「生命のメッセージ展」によって命について考えてくれていたものだったと思います。少しでもいいから、命の尊さについて思い出す時間が、私たちには必要であり、それを作り出す力が「生命のメッセージ展」にはあると感じました。「生命のメッセージ展」の他にも方法はあると思います。様々な方法で、人々が命について思い出す時間を作れば、悲しむ人は減ると思うのです。それは、わずかな差かもしれませんが、それでも、それは重要な第一歩です。

私はこれらの活動を通して、人々の思い、悲しみ、そして必死に歩いている姿を知りました。これはきっと、私にとって貴重な経験になるでしょう。普段の考え方にも少し変化があったように思います。例えば、交通事故に遭わないように、自転車を運転する時は、周りをしっかり見なければいけない、スピードを出しすぎてはいけないということが、運転中に思い浮かぶようになりました。その程度なのか、と思われるかもしれませんが、この考え方の差はとても重要です。このような考えを多くの人が持ってくれば、不注意から来る交通事故は減ると思いませんか。人の考え方、意識の変化はとても大きな要素なのです。私は、社会が命の大切さを思い出し、人々の普段の意識が少しでも良い方向へ変わっていくことを願っています。その為には、「生命のメッセージ展」のような命について考える機会が必要だと考えます。